

こどもの病気対策法①①⑥

—夜間の子どもの咽頭痛—

大分大学客員教授 是松聖悟

昨年度から、子どものいるご家庭に配布してきた、夜間のこどもの病気対策フローチャートの改訂をしています。今回は「夜間のこどもの咽頭痛」、つまり「のどの痛み」です。

急にのどの痛みを訴えた場合、最初に確認すべきは、何かでのどを突いていないか、何かが刺さった可能性がないかです。歯磨き中にこけたとか、串を食べていたとか、骨のある魚を食べていたなどがあるれば、それが刺さった可能性があります。この場合は、急を要する可能性がありますので、こども救急電話相談（#8000）に問い合わせ、指示に従ってください。

そのような可能性がなければ、次は発熱、咳、嘔吐、下痢などの他の症状がないかを確認してください。それらがあれば、これまでご紹介したそれぞれのフローチャートに進んでください。

それらの症状がない場合、眠れるのであれば、何も処置しなくてよいです。しかし、眠れないのであれば、痛み止めの内服や坐薬を使ってください。「痛み止め」なんて持っていないと思われる場合もあるでしょうが、実は「痛み止め」と「熱さまし」は同じ薬です。熱さましは持っていることが多いでしょう。熱さましが無い場合は、のど飴などでもよいです。欧米の医学書には「のどの痛み」に薬を使うことなどは書かれておらず、のど飴などが推奨されています。

それで改善すれば朝まで様子を見ておいてください。改善しない場合は、こども救急電話相談（#8000）に問い合わせ、指示に従ってください。ただし、このフローチャートはあくまで目安です。心配事があれば、こども救急電話相談（#8000）に問い合わせてください。

夜間のこどもの咽頭痛 フローチャート

